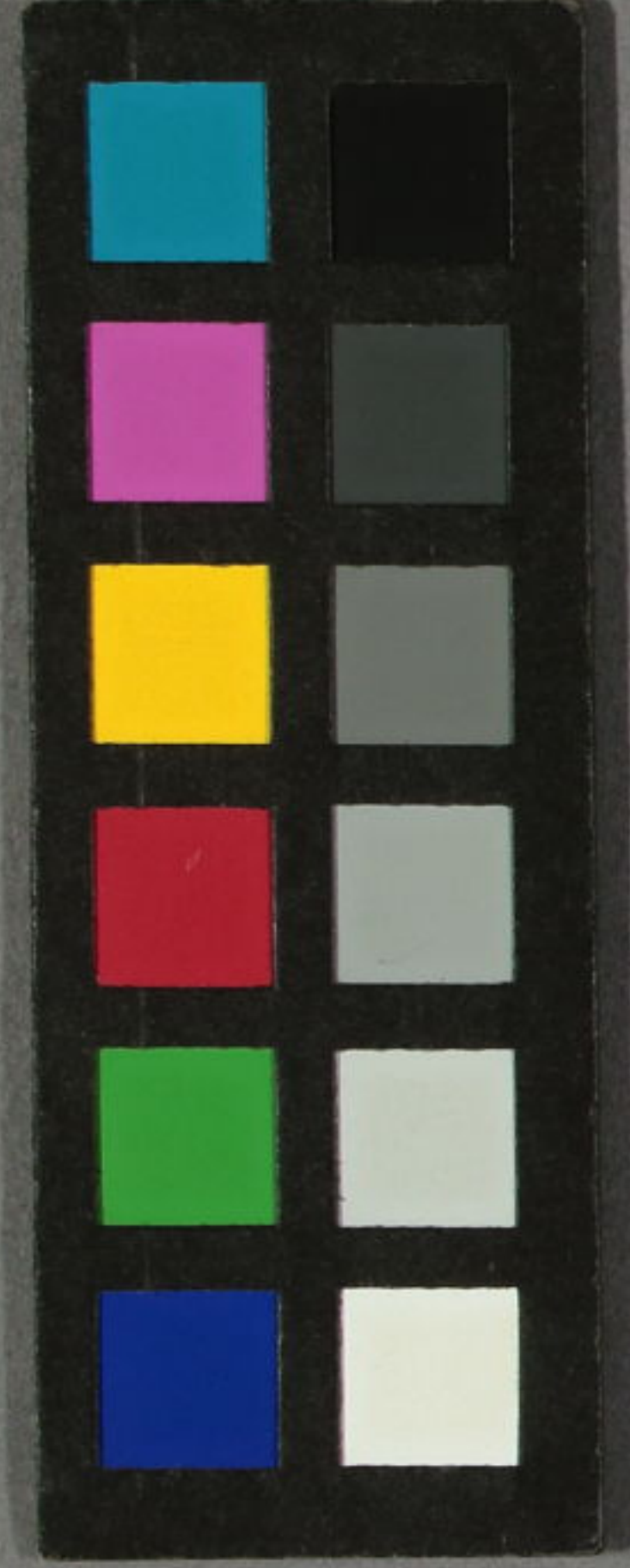


續膝栗毛六編

上

九九

13
3180
11



門 へ 13
號 3180
卷 //

波曾街道滑稽全二冊

續膝栗毛六編

昭和十年六月二十五日 購求

東都十返舎一九著

續膝栗毛六編序

續膝栗毛六編序
續膝栗毛六編序
續膝栗毛六編序

先王巡行
先王巡行
先王巡行

先王巡行
先王巡行
先王巡行

先王巡行
先王巡行
先王巡行

先王巡行
先王巡行
先王巡行

へうま岐獲御(きそくご)十一(じゅういち)冊(まふ)も(も)あ(あ)り(り)
まふ ○あ(あ)ら(ら)う(う)
 る(る)も(も)あ(あ)ら(ら)う(う)物(もの)の(の)目(め)方(か)の(の)世(よ)目(め)と(と)あ(あ)ら(ら)う(う)
えん ぞ(ぞ)う(う)え(え)
 本(ほん)の(の)續(つづ)編(へん)十(じゅう)一(いち)巻(まき)目(め)。東(とう)都(と)の(の)か(か)ら(ら)へ
か 寄(よ)る(る) ○あ(あ)ら(ら)う(う)
 辰(たつ)里(り)馬(うま)の(の)予(よ)も(も)小(こ)冊(まふ)の(の)助(すけ)馬(うま)と(と)あ(あ)ら(ら)う(う)
ちゅうり と(と)あ(あ)ら(ら)う(う) ○あ(あ)ら(ら)う(う)
 一(いち)寸(すん)小(こ)冊(まふ)の(の)法(はふ)法(はふ)杖(じょう)の(の)河(か)内(うち)料(りょう)成(せい)
ちゅうり と(と)あ(あ)ら(ら)う(う) ○あ(あ)ら(ら)う(う)
 予(よ)ら(ら)に(に)馬(うま)士(し)と(と)あ(あ)ら(ら)う(う) ○あ(あ)ら(ら)う(う)
まど 倉(くら)と(と)あ(あ)ら(ら)う(う) ○あ(あ)ら(ら)う(う)

少(す)し(し)の(の)り(り)と(と)あ(あ)ら(ら)う(う) ○あ(あ)ら(ら)う(う)
 少(す)し(し)の(の)り(り)と(と)あ(あ)ら(ら)う(う) ○あ(あ)ら(ら)う(う)

録(ろく)亭(てい)可(か)山(さん)誌(し)

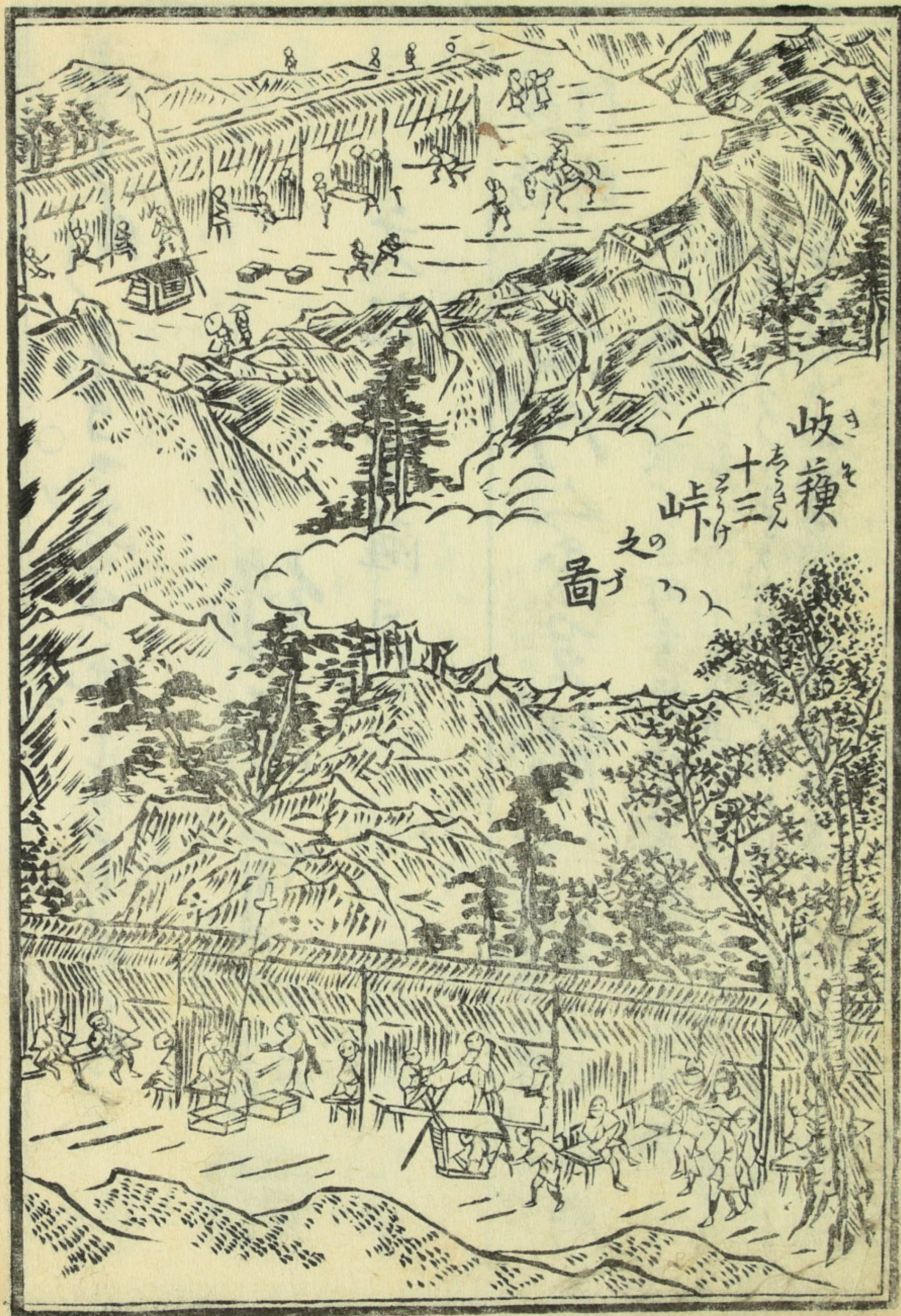

文化乙亥(ぶん化にえい)陸(りく)月(げつ)

越(こ)後(ご)行(ぎょう)時(じ) 二(に)札(さ)乃(の)之(之)家(か)五(ご)帖(てい) 十(じゅう)返(へん)舎(しゃ)著(しやく)
 全(ぜん)二(に)冊(まふ)近(ちん)刻(こく)

越後高田(こちごたかた)横(よこ)濱(はま)日(ひ)町(まち)三(さん)橋(はし)孫(まご)左(さ)衛(ゑ)助(すけ)記(き)廿(にじゅう)一(いち)葉(えふ)乃(の)
 帖(てい)の(の)一(いち)冊(まふ)と(と)其(その)の(の)得(とく)一(いち)と(と)五(ご)思(し)の(の)つ(つ)き(き)ら(ら)ひ(ひ)と(と)越(こ)後(ご)上(かみ)原(はら)一(いち)
 風(かぜ)味(あじ)と(と)あ(あ)ら(ら)う(う)小(こ)冊(まふ)の(の)法(はふ)法(はふ)杖(じょう)の(の)河(か)内(うち)料(りょう)成(せい)と(と)あ(あ)ら(ら)う(う)
 ち(ち)と(と)あ(あ)ら(ら)う(う)小(こ)冊(まふ)の(の)法(はふ)法(はふ)杖(じょう)の(の)河(か)内(うち)料(りょう)成(せい)と(と)あ(あ)ら(ら)う(う)



式磨
田



岐
嶺
十三
之
番

再叙

山気ハ青村か呼こゝろややそそその質素清朴
み雅みやびもも古代こごの道風みちかぜをううりつたあそ
もみお移うつるべ自着じぢやくの心こころを懐なつかしむ一郡いちぐん
臣おみの才さいとまわつておの心こころを懐なつかしむ
み依よて形重かたちおも二條ふたじょうの六段むつぜんの筑波集つくはあつみ草くさ
の名なも。以もつてかゝるあつとつと向むかう。程ほど
波なみの芽こゝろも伊勢いせの浪なみ花はなく。越前えちぜんの
所ところうとせし。伊勢いせかよびもの名なも。越前えちぜんの
異ちが同おなあまも。園うみおづりし。我われ中ちゆうあの本ほん曾そ
路ちの言ことまも。揚やう言ごんおづりて上声じやうせいあつと。

そと解とかあつと。只ただ新あらたまをたつとを
修しゆ了りやうし。今年こゝね續つづ六編むつへんの編あつ向むかを編あつ里りぬ。
稿こう末まつて後信物ごしんぶつ松本まつもとの何なに世よホを。予よかか
みりたあそ。松本まつもとの著しやく述じゆつおみ
俚らひ言ごんの送おくりひ。よとを記しるす。土人つちびとお風かぜ候こう
齋さいあつと。精せいく書かねとせし。おみあつと
予よかか。初秋しゆしゅうの頃ころを。お米田こめだの頃ころで。信しん加か
善ぜん言ごんおみ。所ところくお好この書かして。是
彼かと見みなせし。お松本まつもとの人ひとおつと。お
符ふ合あい。お松本まつもとの。お松本まつもとの。お松本まつもとの。お松本まつもとの。
同おな下した予よが園うみおづりて上声じやうせいあつと。

今より皇土の歴史を述べる事志可程

十返舎一九誌(貞)庶

江之嶋百味講之記

讀本 二冊正刻
十返舎吉著

大百味講中大せん終りより皇土の事長安
中の終り終り終り地引網の終り全夜の船
あそい来すをよるるをよるる清和の事

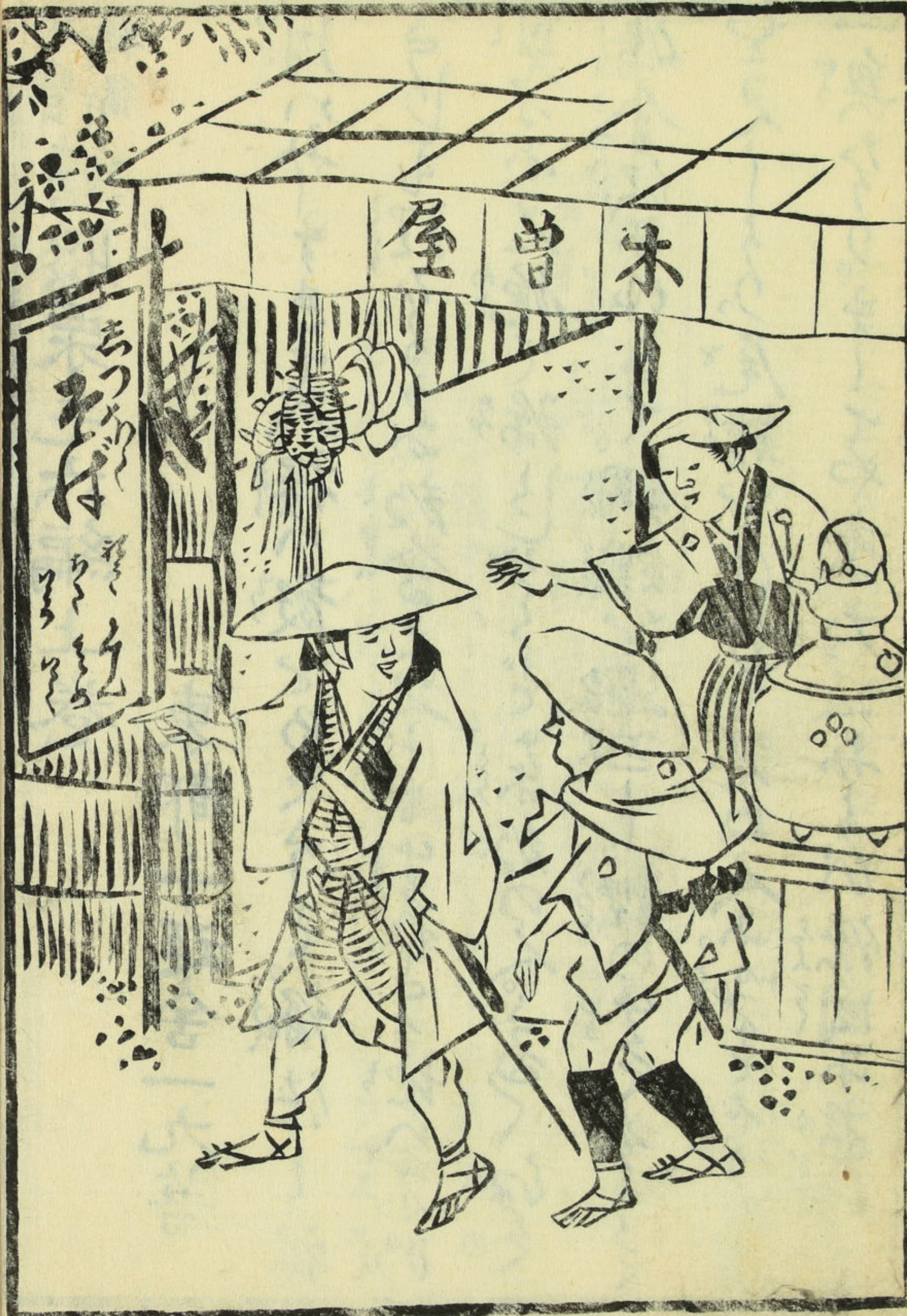
木曾續膝栗毛六編上卷
街衛

東都十返舎一九著

月つきの井いすそて入い。接つぎハ散ちりとめてうと。祿ろく法ほうと孫そん
うしも理ことわりなるま。初はつ會かいといとも生うまれらる地ちハ不ふ政せい
見みる小こえ飽あきて孫そんじうとと。末すえ終はつのく。まぐはる
鳴なり金かね沢さわ小こゆきて。調てう練れんと追おひ旦ま。舞まの生うまをうと
とえしより。尾お髻びんとほけてえぬ人ひと小こいよとをうらも
一いつ魚いさなたりり。中ちゆうしてや京きやう大だい坂ばんおらび。徳とく國こく不ふ推いひ

木曾續膝栗毛六編上卷

上



て日毎小かふる山川のありさる。月なりぬん人の

風俗言格のさうげなるなましく樂しむ事難

忘し申すた徳のありさるさる御事業を多

へのさうげさる。さる御事業を多

こともあつて。その濃別大なるのさるさる出

十三夜とあつて。大井の歌あぞらるる。

可變 ころモシノ木
 ねん けがれ ちやふのぞく

あぬる。けがれやちやふのぞく。笑でちるあゆんぐ

おんやうごさる。そんてのあまのこゝろなほは

ナト体もやほらう。そのあまのこゝろなほは

まじり。なんのあまのこゝろなほは

があるものさう。さるさる。そのあまのこゝろなほは

ら。そのあまのこゝろなほは

ぬのこのあまのこゝろなほは

さるさる。そのあまのこゝろなほは

あつて。そのあまのこゝろなほは

ひらきやうのきりぎりす

こんでや「まゐるの敷をやうえきく」とありてゐる
かゝうして来たあつて。ハハハハハハハハト
ものゝきく。いふてもううとうまういふたや「まゐるこ
かゝるゝるゝるゝ」と。案もうまうのめまを「まゐる
コリヤ案を「まゐるまゐるまゐるまゐるまゐる」
久の洞でござるやと「コリヤをまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
馬込より蘇鉄あつて。今般七時ふ出らけあつて
「あゝこの方の病違となさういふも。二七二うてござる

とらふものござる大いふまゐるまゐるまゐるまゐる
幕力のさんでや。第一般七時う級橋まゐるまゐるまゐるまゐる
物「あゝまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
あまののいふまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
度まゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
たらまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
なども餘人よりまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
でけまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる

ひらきやうのきりぎりす

てさうあゝぬ一三旦那がくせも。うらやまのいふ事
 中。後後後。さうや。さう「さうさうさうさうさう」人
 女。百又十五の弁。そのうさうさうさうさうさうさう
 ありさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 一のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 親。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 伊。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 と。家の。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

亭。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 女。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 入。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さ。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 女。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 女。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さ。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 中。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 中。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ひさのむすめ

しほのこゝろ

しほのこゝろ ○アキウラ

トは西よのうらみの十は女のまがかり
まのこゝろのまのまのけをえとて

「ヤカ マハ らおーやく マハ ーんあおとゆうじいんか トは ーん トは ーん

ふり トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん

「内 トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん

「さ トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん

「さ トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん

「さ トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん

「さ トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん

「さ トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん

「さ トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん

「さ トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん

「さ トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん

「さ トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん

「さ トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん

「さ トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん

「さ トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん

「さ トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん トは ーん

しほのこゝろ

二二

乙卯年六月廿六日

晴く夜

北々々

何事

歎

人

この

其邊舎

一蟾



や

め

ちん

あ

荳の子

九光舎
一井



乙卯年六月廿六日

十一

ひやうとせきくる二中 持鼻

よろこびのそとにえたる人。おあしをよしくのあつ坊

ごとおりのことして。ごうてきふうけさるるアごころ

ごんごめふあつご。サアおうけかううトちや代をさるひ

侍とおりのひのふのす威ふ

ひやうとせきくる二中 持鼻

かくて大井の宿をとをたうきて。えやくも岩津村小る

場とあし。中津川のあふはく。け宿をうきふは

の人。あつらさなるりあつと。何ごとやうんと二もきまの

視きんまじ。まづまはけい。サアくごあつもあつとで

たつちあつ。ゆるくせましく。あつとくごうくとあつ物ト

さうりせせ。私りの系部あつと。四系は系おあつと。大

坂の天満天神。山とまはつ。あつと。あつと。あつと

まじつ。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと

まあつ。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと

かけまじつ。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと

まづのけまじつ。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと

ひやうとせきくる二中

持鼻

おうじが。山のやうふありりうさなる。そいじやういんや
 さるが。たうあついろ。世るのえせふ。いろくのあがう
 くりまうけてあせじことたしよのくおつあせま。今ふ
 降判ふたうして。高しぐらとありいろ。こまも笑談
 とまうてやうと。それうう毎日そあふよと。くさるが
 えせうたふ。軽うう。晩中であう合る。合。中ん物入
 あれ。あせじがひとり。とこりてん。とあがる。あうさうい
 コリヤ。あついろ。こま役のあついろ。吹出さあふ。

はけてあるもの。とひてのあついろ。屋裡やと。そこ
 び。あついろ。コリヤ。はま。ん。あついろ。とありあついろ。
 又ある。あついろ。の。あついろ。あついろ。あついろ。あついろ。
 来て。あついろ。あついろ。あついろ。あついろ。あついろ。
 とあついろ。あついろ。あついろ。あついろ。あついろ。
 ぞな。あついろ。あついろ。あついろ。あついろ。あついろ。
 小さ。あついろ。あついろ。あついろ。あついろ。あついろ。
 しあついろ。あついろ。あついろ。あついろ。あついろ。

と風が吹て。火があらるさうい。こゝもあんまりあつ
 ちうて。ツイ吹おきまひやうし。小尾籠るまがら。あたら
 といとらテウと方と。銀治屋さるが。コリヤけ吹草の
 あらんこゝの。屏の用公しんこうがさういといのまじし。ハハト
 け内りく引こしとて。緋の合箱のうま。あはしきつて。あ
 せあひくるあやぢとえ物して。あはしきと大あつて。あ
 がのよにべいたらして。ませろのや。りぐ香のせのさやう。あ
 ぢけいふいふや。こゝらのあやあや。家籠いえろうのうん
 のんであまうこゝあつて。だぢうめが。あまうまがら



木芳川

再々

はま

り

まあし

女片全中九

ひきかしの巻六編

上十一

ひらきしんせいの

のいのぞ。江戸の三圍とらよふで。比入ぢらや田と
又ちぢりの井たふとらよふぢらして早ふぬ
あしぢら男と「ヤアヤアおま。ソリヤア たまげらよとら。
わらうらがめんあやア息もも。そんなぢらこぢらでこ好
でぢらうら。めんと今夜アうらがよふ来てとまら
甘ぬら。お供中よとらよ「はらぬらも無ぢらぢ人の
あくらしてあせらふらうらやせうら「おぢらぢらぢらぢら
らうらせとぢらぢらうらせ「はらぢらぢらぢら

やせうら。おめ入のお宅「うらがあけよとらぢら
とらよふら。二里へのもよで福田とらよ村でこぢら
らア「ぢらぢら後らぢらぢらぢら。まらぢらうらうらや
移ら「サアくらぢらぢらせく「トそれうらうらなぢら
よりあぢらぢらうらて。ひらうらのよ。山あくらとらよ。結末のぢらぢら。わまら
山とらぢらうらうらうらうらぢらぢらぢらぢらぢら。あまら
らうら「ぢらぢらぢら。まらぢらぢらぢらぢら。け村のぢら
とらうら「ぢらぢら。利はぢらぢらぢらぢら。ありてよとらぢらひらぢらぢら
らうら「サアくらまらぢらぢらうらうら「ぢらぢら。めんあや
らうら「ぢらぢらぢらぢら。ぢらぢらぢらぢら

ひらきしんせいの

ひらきしんせいの

此馳をでどどろりやまこトは直してしまふのめどありてらる。
ふこもろつてそればどどらやうとまらふ

とこがうな「コリヤ」酒がからちあやアあひ中をまのいざア
ゆるららららあぐらまき

「あつちへうてゆく中であて
ひとらちのんでそればりら

らうよひとらちもらけぬ酒あれどもいひのSwans
ままといめなうまてうちをまわあまらうらうらうのSwan

「ひきーぶりで
雑どろり。是小山楪どろりえるとあめ妙どろり」

「あまの
あまの「あまのめをあまらまされま」

「あまの
あまの「あまのめをあまらまされま」

「あまの
あまの「あまのめをあまらまされま」

「あまの
あまの「あまのめをあまらまされま」

「あまの
あまの「あまのめをあまらまされま」

「あまの
あまの「あまのめをあまらまされま」

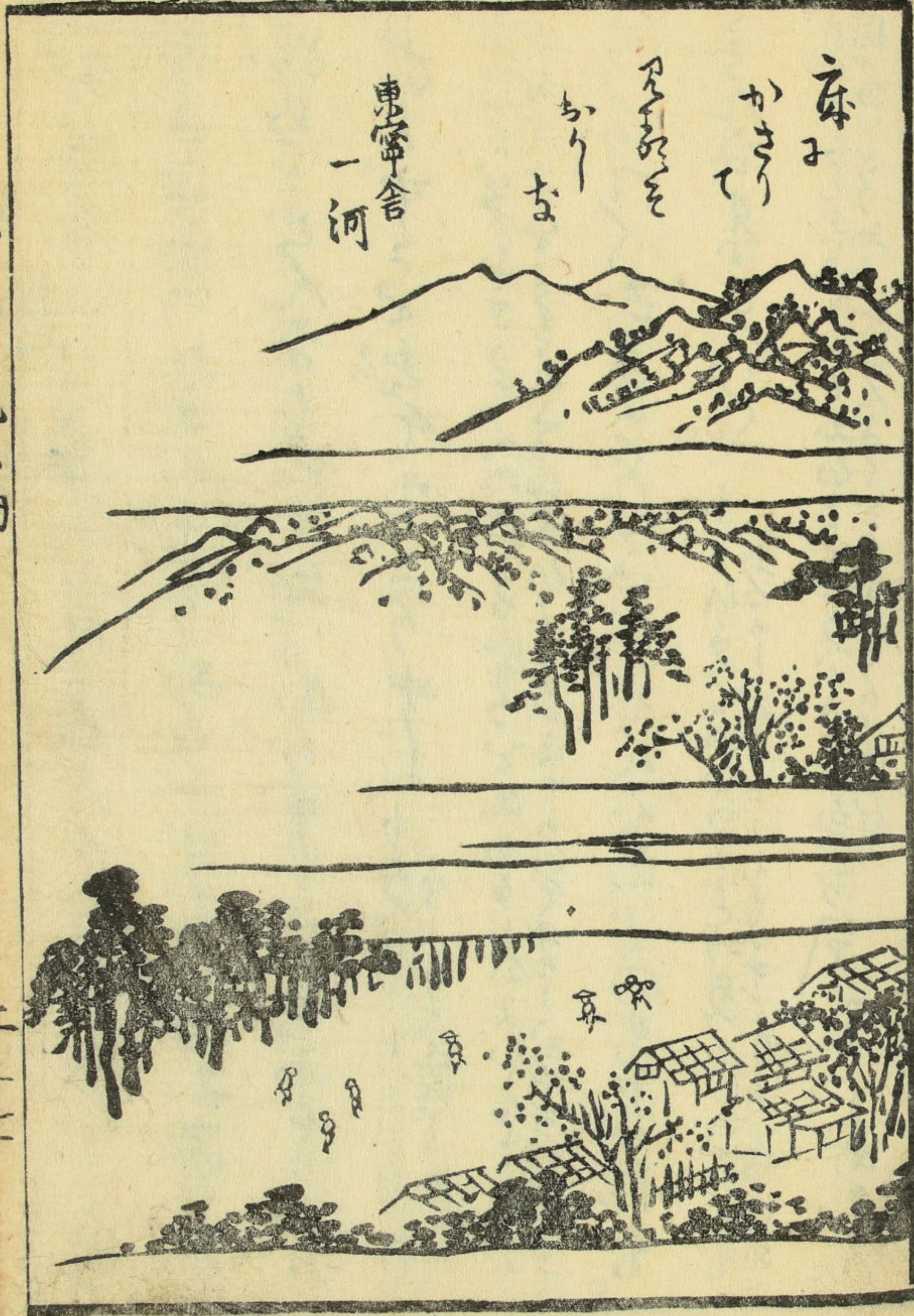
「あまの
あまの「あまのめをあまらまされま」

「あまの
あまの「あまのめをあまらまされま」

「あまの
あまの「あまのめをあまらまされま」

「あまの
あまの「あまのめをあまらまされま」

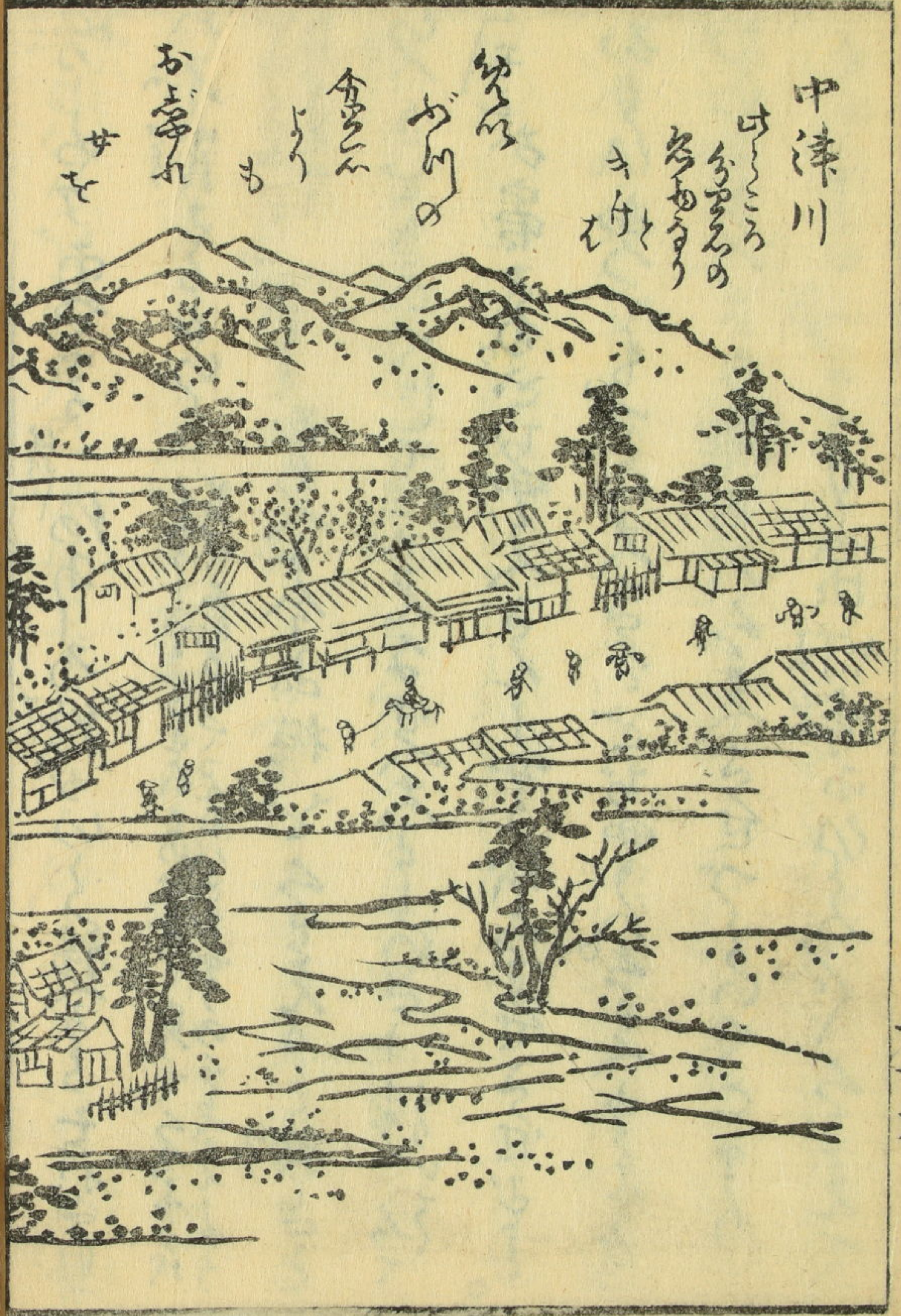
「あまの
あまの「あまのめをあまらまされま」



東寧舎
一河

麻子
かきり
て
あき
な

山
の
し
ら
べ



中津川

あき
な
の
あき
な
の
あき
な
の

おきり
な
を

山
の
し
ら
べ

山
の
し
ら
べ

しるし

十

あゝ、奥へいびい、コリヤあひーろい、
 つよとやうがちがひかき。咽がほかき味味の尻
 じやアこざうやえん、あんでじやう、
 夜ぞ野をのひちひたりとらふ旬でじやう
 中とじやう、トけ内からやうかきあひのうじやう、
 かけらじやう、あやぢもももよよとやう、あも、
 ういふのうじやう、のぞきもんれつたやう、
 てんてんあひよ、あもももよよとやう、
 ううせきとをさうふととらひ男めけう、
 ううあや。あんの科があらで、
 ート

あゝ、奥へいびい、コリヤあひーろい、
 つよとやうがちがひかき。咽がほかき味味の尻
 じやアこざうやえん、あんでじやう、
 夜ぞ野をのひちひたりとらふ旬でじやう
 中とじやう、トけ内からやうかきあひのうじやう、
 かけらじやう、あやぢもももよよとやう、あも、
 ういふのうじやう、のぞきもんれつたやう、
 てんてんあひよ、あもももよよとやう、
 ううせきとをさうふととらひ男めけう、
 ううあや。あんの科があらで、
 ート

あゝ、奥へいびい、コリヤあひーろい、
 つよとやうがちがひかき。咽がほかき味味の尻
 じやアこざうやえん、あんでじやう、
 夜ぞ野をのひちひたりとらふ旬でじやう
 中とじやう、トけ内からやうかきあひのうじやう、
 かけらじやう、あやぢもももよよとやう、あも、
 ういふのうじやう、のぞきもんれつたやう、
 てんてんあひよ、あもももよよとやう、
 ううせきとをさうふととらひ男めけう、
 ううあや。あんの科があらで、
 ート

しるし

十

いき
くひ

さき

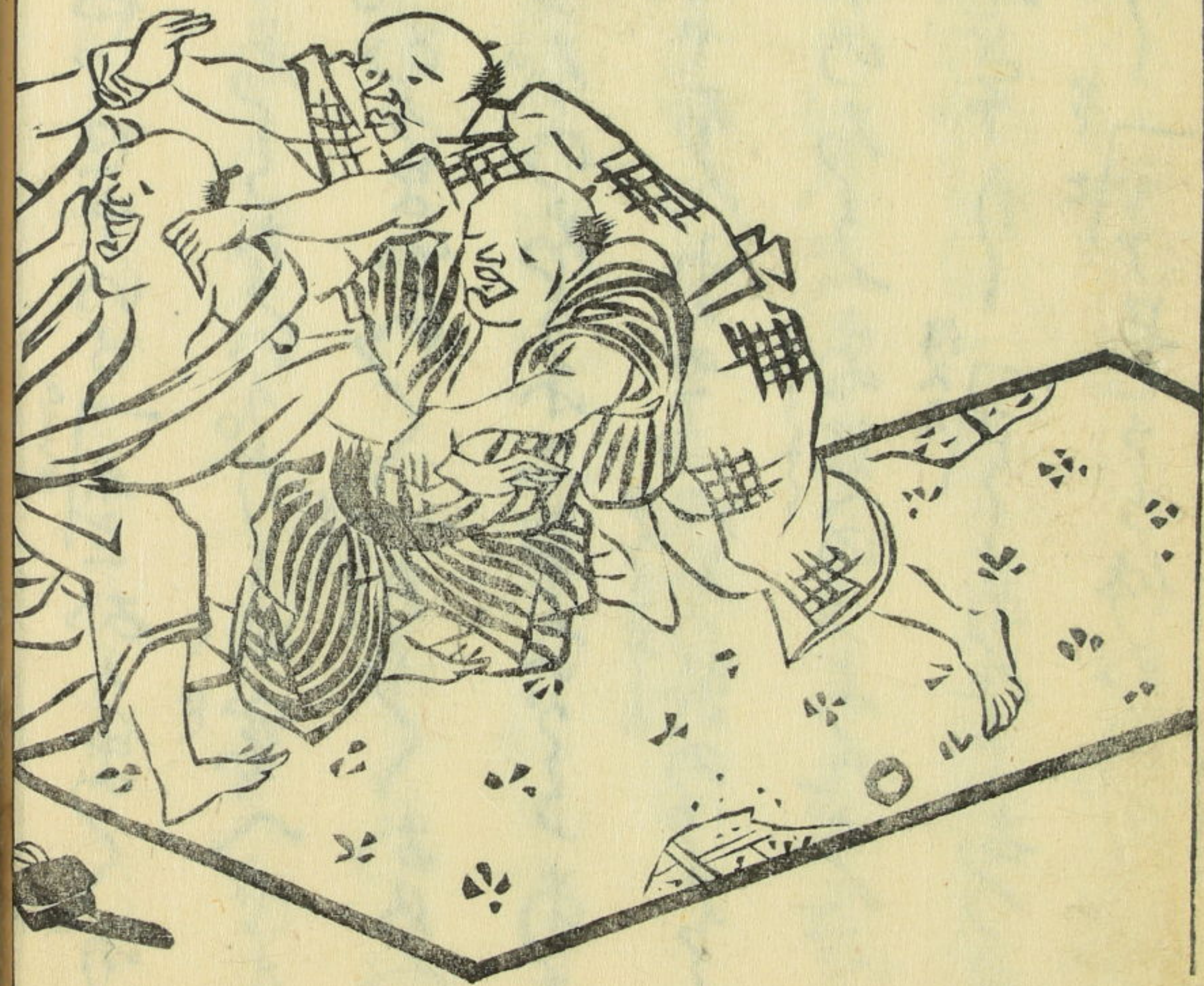
おん

仲

ま

の

権
お



あつ

ちう

ま

威和亭

の
武



この本は...

...

木曾 街衛 續 膝栗毛 六編 下卷

東都 十返舎 一九著



山家のもの寂しく。松風の音耳よつとそ。夜も
 縁しきぎと。あくる辰待く松福田と立出。山道と
 たどりく。漸く落合の歌ゆぞ出。りりる。持鼻の
 茶屋女ども。往來と噂。るる。あやまらる。れく。
 お者達の出来たてもどろり。まよふ。あそりり
 まさしく。かき。ん。ん。安く。ら。き。せ。せ。ら。

...

...

さいよせ。惣く女中ぢゆうぢゆうがこどもひくくと吸すいふはるの
奇妙きせう希代きだい。あつーなうまよおあ買かたうまきま「イヤ
こらふ入いあひあきん。かごの籠かごちとまりて下くだす。
モモその吸すいがうう申まを入い女ぢゆうぢゆう希き代だいおらりて。あつー進しんて
うりけう移うつり入い女ぢゆうぢゆうも。さいよせ申まを入い移うつり入い申まを入い
く。あつーがそこふは申まを入いがごじうり申まを入いと。そんな
とたああ膏かう茶ちやと紙しへのををささぶぶふ。小判こばんへの送くわて
その女ぢゆうぢゆう入い送くわ付つけて申まを入いああさい。あつーふ吸すいよせ

まずと「あつーやアがままそんなままでもあつーとあつー
女ぢゆうぢゆうも吸すいよせるといふあつー
そまま入いうち申まを入いかう申まを入いあつー
味あじの茶ちや色いろああ。栗くりの強きやう飯いひ名物なぶつあり
濃あじ皮かわのむけけ女ぢゆうぢゆう入いんんののここども
栗くりのここどもども「ああのの名物なぶつ
かかつてけああの茶ちや色いろああかかつてけああの茶ちや色いろああ。おおあ
ああふ希代きだい合あせせる男おとこ。是こもああつーたた仲なつ回まわり

山崎の風景



式磨

はな

はな

はな

一樹の

山崎

山崎の風景



馬込峠

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎の風景



乙未年三月廿一日

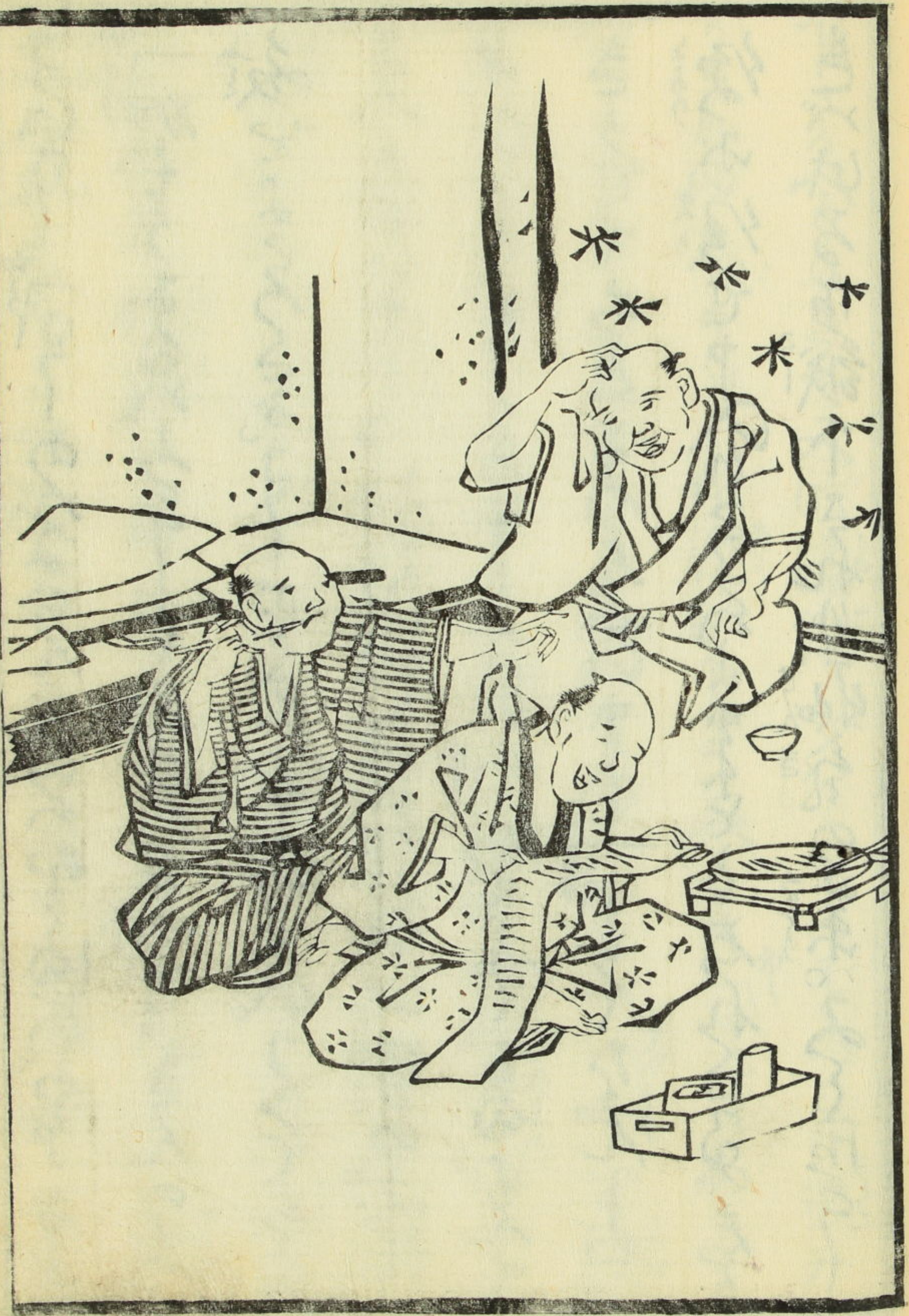
丁



乙未年三月廿一日

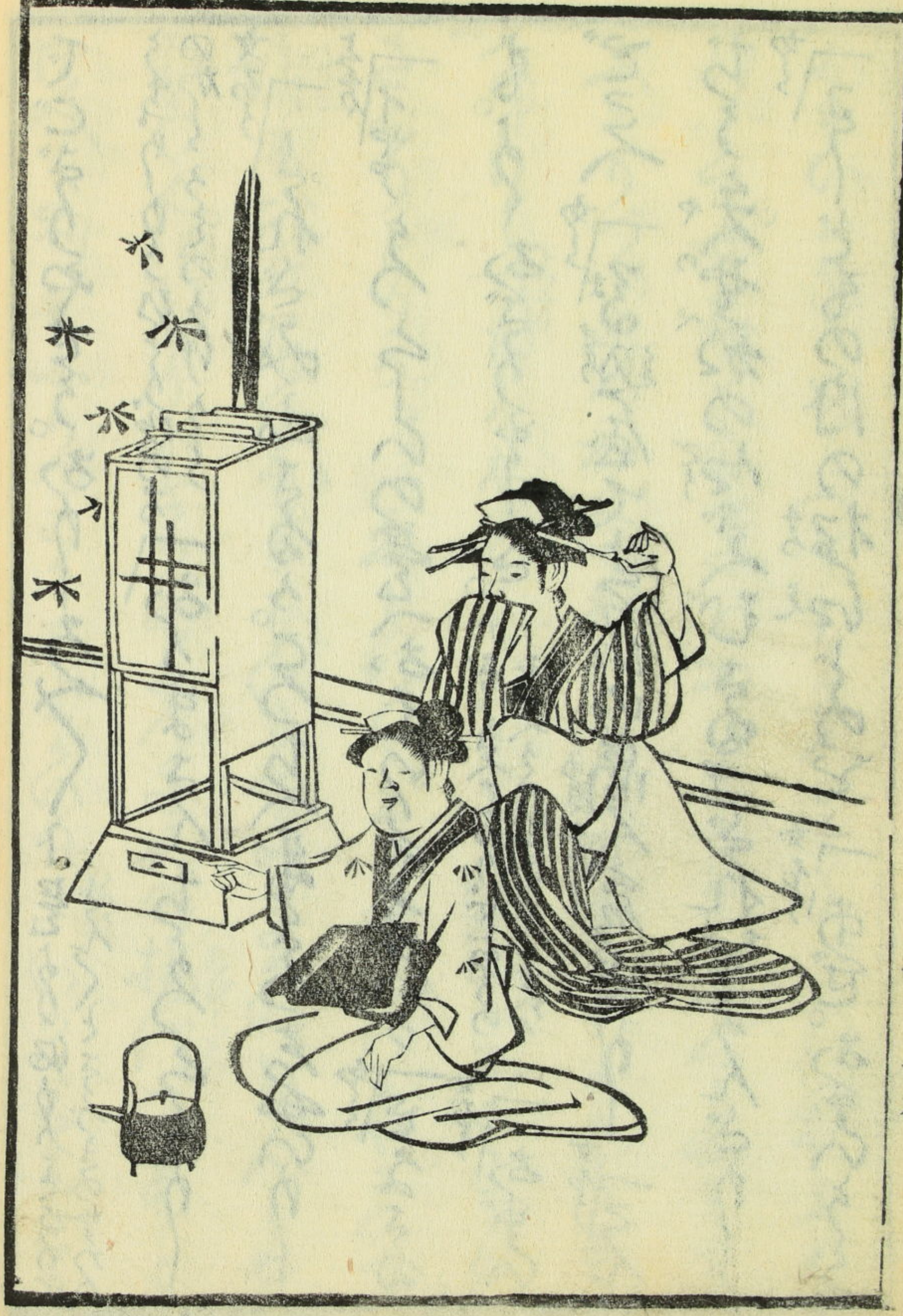
丁

下
上



下
上

下
上



下
上

Handwritten text on the left margin of the right page.

Handwritten text on the right margin of the right page.

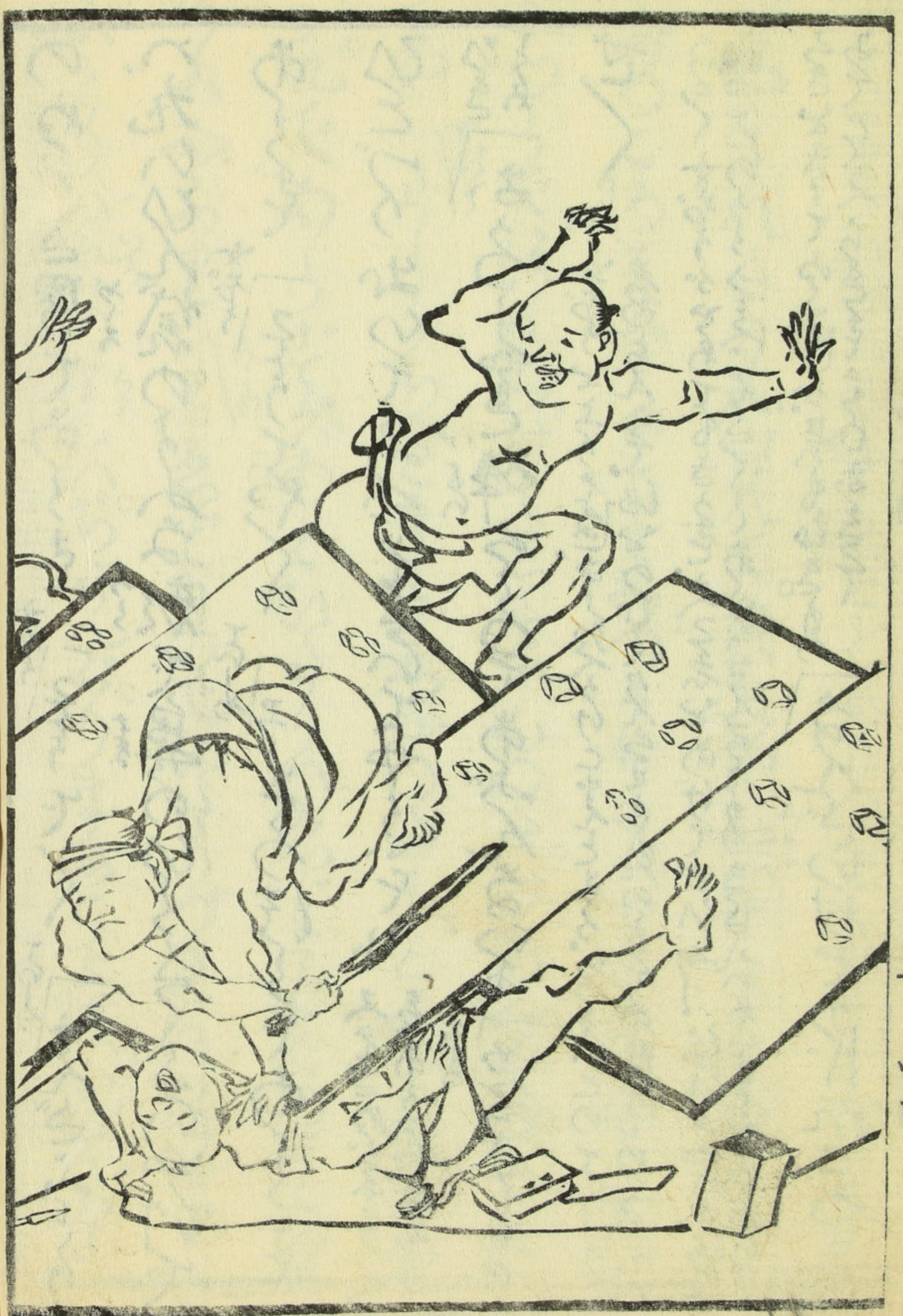
Main handwritten text on the right page, written in a cursive style with various annotations and symbols.

Main handwritten text on the left page, written in a cursive style with various annotations and symbols.

Handwritten text on the left margin of the left page.

Handwritten text on the right margin of the left page.

Vertical text on the left margin of the first page.



Vertical text on the right margin of the second page.

Vertical text on the right margin of the second page.

ひまわり花の種

11月

つらねの種 つらね

コリヤア

コリヤア コリヤア の種

ア ア の種

く く の種

巾 巾 の種

コリヤア コリヤア の種

く く の種

その種

種 種

よ

ホニ ホニ の種

あ あ の種

その種

その種

その種

その種

その種

その種

11月

11月

ひびきたる

比丘なるあらしうがふれあひし^はくわじあせ。揚代と
かきうらまふし^は男が。はびらうあせがふれあひし
ちがひに移し^ハイヤあらしうがふれ^ハコハ^ハあせ
らんぐいし^ハン^ハパニヤ^ハあせ^ハハシ^ハハ^ハの^ハあせ
ひつらん^ハあせ^ハも。ト^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハ
斎^ハふよ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハ
ぬじ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハ
その後^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハ

小一^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハ
あつて。石の地^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハ
進^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハ
イヤ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハ
移^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハ
交^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハ
あせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハ
あせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハ
あせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハ
あせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハあせ^ハ

ひらきとくもさる

下

跋

武のりや あえん えんごう 安閑天皇の御時 おんとき 牛紙
せつ 瀬津大隅 あきさき 放ち馬 はなちうま を科野園 しらのゐ 丹
 をあつ ひら 至自然 じしぜん なる なる 丹 に ありし あり
ごう 後世 ごう 牛馬 ごうま の丹 に 一 ひと かく かく なる なる 丹 に あり あり
 多 おほ なる なる 丹 に あり あり 今 いま 中 ちゆう 返 へん 丹 に の の じ

とひやれ 一 ひと 葉 は 葉 は を を 紙 し 書 か 様 やう 丹 に あり あり
ま 其 その 紙 し 向 むか 丹 に あり あり 今 いま 年 ねん 全 ぜん 版 はん
 十 じゅう 四 し 編 へん を を 出 で せ せ る る 丹 に あり あり 今 いま 年 ねん 全 ぜん 版 はん
 丹 に あり あり 作者 さくしや の の 手 て 挿 さ 丹 に あり あり 今 いま 年 ねん 全 ぜん 版 はん
ま 丹 に あり あり 丹 に あり あり 丹 に あり あり 丹 に あり あり
ま 丹 に あり あり 丹 に あり あり 丹 に あり あり 丹 に あり あり
 丹 に あり あり 丹 に あり あり 丹 に あり あり 丹 に あり あり

八

下

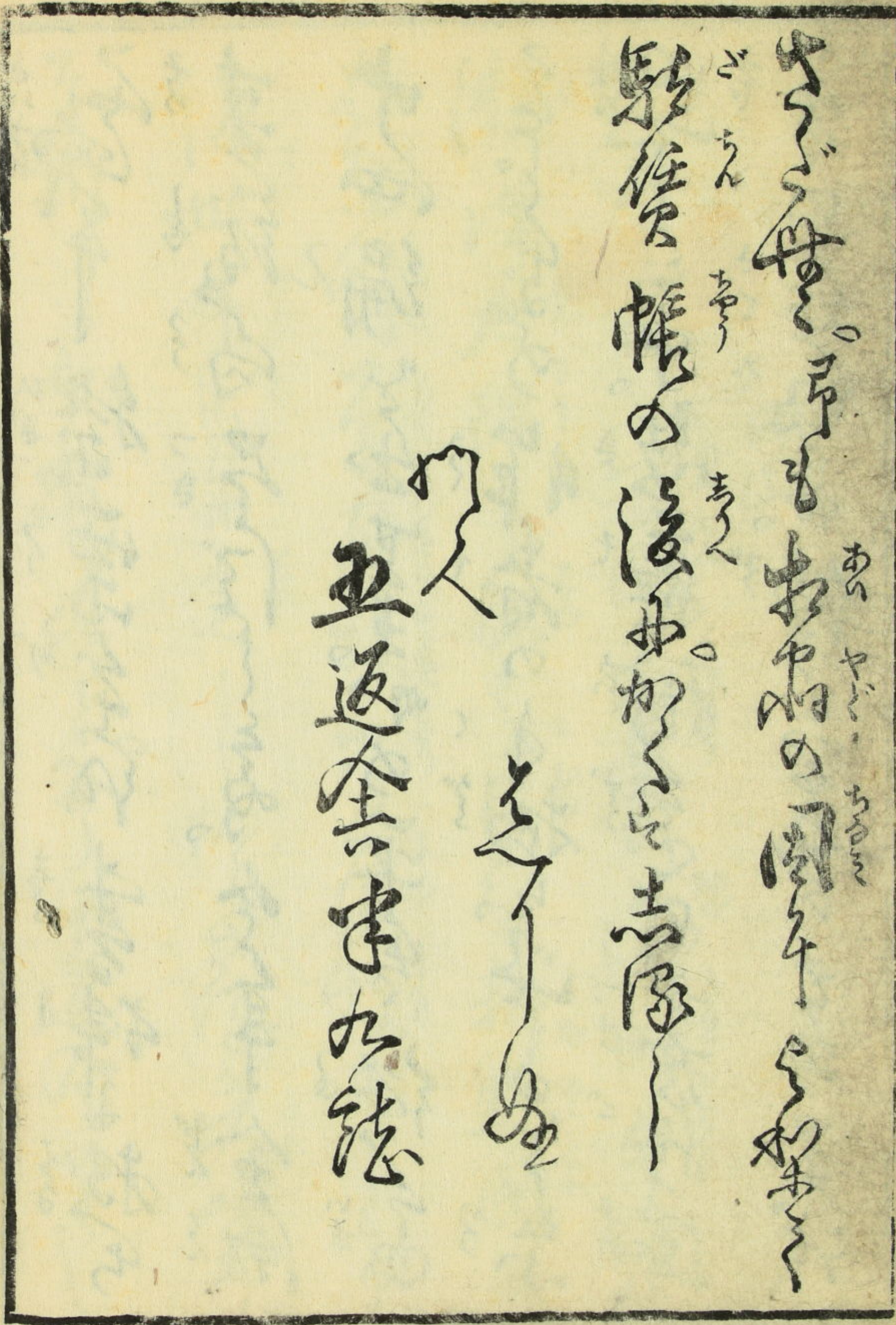
Handwritten notes on the right edge of the page.

あつちの母。早もあつちの園子。あつち

影信帳の後。あつちの志願

あつち

あつち
五返金半水結



明治十九年

續猿蓑編

下

三十